

本とっしょ

第2次鶴岡市子ども読書活動推進計画
～子どもの成長に合わせた読書活動～

令和2年～令和6年度

読書は、学びであり、楽しみであり、知的好奇心を満たすものです。子ども時代に、宝物となるような本との出会いがあること、読書を通して心豊かで健やかに成長できることを願いこの計画をつくりました。また、第2次計画では子どもの成長に合わせた読書のあり方を検討し、それぞれの年代にあった具体的な取り組みを取り上げ、子どもから大人まで多くのみなさんがこの計画に関わり、読書活動を推進していくことを目指したものです。

目指す
子どもの
読書活動
のすがた

～読書の面白さ、大切さを知り、自ら本に親しむ子ども～

計画の対象 0歳から18歳まで

～読書活動の推進については、大人を含むすべての市民を対象としています～

計画の3つの柱

子どもの近くに
本がある暮らし

子どもの近くに
本の渡し手がいる暮らし

子どもの近くに読書活動を
見守る人がいる暮らし

児童図書蔵書数
(市立図書館)

15歳以下1人当たり
平成25年度 4.3冊
平成30年度 6.4冊
目標 令和6年度
8冊以上

児童図書貸出
年間冊数数
(市立図書館)

15歳以下1人当たり
平成25年度 9.1冊
平成30年度 10.3冊
目標 令和6年度
14冊以上

小中学校への
貸出年間冊数
(市立図書館)

1学級当たり
平成25年度 9.8冊
平成30年度 11.6冊
目標 令和6年度
15冊以上

保育園・幼稚園への
貸出年間冊数
(市立図書館)

入園者1人当たり
平成25年度 1.1冊
平成30年度 2.5冊
目標 令和6年度
4冊以上

子どもの不読率
1か月に1冊も本を
読まない児童生徒の
割合

目標 令和6年度
小学2・5年生
2%以下
中学2年生
8%以下
高校2年生
26%以下

国の第4次計画の
目標数値を本市で
も目指します

計画の数値目標

ブックスタート事業※による効果

Q「ブックスタートに関してどのように感じたか」
A「赤ちゃんへの読み聞かせをするきっかけになった」に
「あてはまる」・「ややあてはまる」と回答した割合
平成30年度 59% 目標 令和6年度 70%
※ブックスタート事業 7か月児健康相談時に読み聞かせ
の実演と絵本のプレゼントをしている本市の事業

子どもの成長に合わせた読書のすすめ

～子どもと一緒に、おはなしを楽しみましょう～

子どもと一緒に、絵本や本を読んでおはなしを楽しむことは、子どもとのふれあいの時間のひとつであり、**子育ての楽しさ**を感じるひとときではないでしょうか。また、おはなしにふれることで、**想像力や言葉を育てる**よい機会にもなります。

★パンフレット「**本といっしょ**」(子どもの成長に合わせた読書活動がわかるもの)をご活用下さい。図書館、子育て支援施設等にあります。



子どもの成長に
合わせた読書活動

空想の世界を楽しむ ～想像力を刺激し、より自分の世界を広げていく～

子どもと一緒に絵本を楽しむ ～ふれあいながら読む～

深く考えるための読書 ～探究のために～

音やリズムを楽しもう
～わらべ歌や手遊びもおすすめ～

おはなしを楽しむ ～心と言葉を育てる～

子ども時代の
充実した読書
体験が、生涯
にわたる読書
活動へつなが
っていきま
す

生まれる前から

おなかの中の赤ちゃんには、いろいろな音が聞こえています。**今から語りかけ、絵本も読んであげてください。**

0・1・2歳児

本との暮らしの始まる大切な時期です。**読書を通して、子どもとの心の交流ができる時間を持ちましょう。**

3・4・5歳児

読書が好きになるための大切な時期です。**子どもが好きな絵本を充分に楽しめるよう、大人がしっかり関わっていきましょう。**

小学生

読書を楽しみ、様々な分野の本と出会い、自主的に読書ができるようになる時期です。それができるようになるまで、**本とふれあう機会をつくるなど、大人が十分に支援していくことが大切です。**

中学生

心身ともに急激に成長し、生活環境も激変します。また様々な要因から、読書離れをする時期でもあります。

高校生

嗜好も一段と多様になり、将来の目標などを決める準備時期です。読書の成熟期に入ります。

大人になっても

読書は学びであり、楽しみであり、知的好奇心を満たすものです。大人も読書を楽しみながら、未来を担う子どもたちと関わり、ともに推進していきましょう。

★「赤ちゃんを楽しみたい絵本リスト」

0.1.2歳児向けおすすめ絵本リスト 市立図書館でほしい方に差し上げています。

★「児童室おたよりシャワー」(市立図書館)

おすすめの本や「てあそび・わらべうた」など親子で楽しめる情報のおたよりを発行しています。

大人からの働きかけも大切ですが、友だちや年代との読書に関する情報交換が有効です。

※市立図書館には、若い世代におすすめの本コーナーがあります。

計画推進のために・・・

- 1) **関係機関・施設の連携と情報共有**→子どもの読書活動に関わる機関・施設が連携協力し、情報提供・共有することで一層の推進を図ります。
- 2) **広報啓発**→子ども時代の読書活動が生涯の読書活動を推進するために大切であることを、多くの市民が知る機会を増やし、広報啓発に努めます。
- 3) **推進体制の整備**→関係各機関・団体から推進委員を構成し、取り組みの進捗状況の確認、見直しを随時行い、より効果的な推進を目指していきます。